

## 平成28年度第1回市民評価委員会議事録

- 1 開催日時 平成28年8月12日（金）15:00～17:00
- 2 開催場所 市役所3階 応接会議室
- 3 出席者 委員14名（眞鍋昌裕委員長、加藤学副委員長、佐々木世希委員、  
福本頼幸委員、伊藤学委員、大野一樹委員、越智千鶴子委員、  
沖則文委員、村上義幸委員、石塚斐子委員、佐藤治司委員、  
加藤すみれ委員、戸田俊之委員、藤田優委員）  
事務局4名（総合政策課 亀井、上野、小島、篠崎）
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議内容
- 1 開会
  - 2 市長挨拶
  - 3 自己紹介
  - 4 会議の公開の確認
  - 5 新居浜市行政評価の概要について
  - 6 平成27年度行政評価（市民評価委員会）結果の経営戦略会議及び予算への反映について
  - 7 平成28年度行政評価対象事業選定について
  - 8 その他

### 6 議事録

事務局	本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。それでは、ただ今から第1回市民評価委員会を開会いたします。開会にあたりまして、石川市長がご挨拶を申し上げます。
市長	皆さんこんにちは。本日は、お忙しい中、また大変暑い中、平成28年度第1回行政評価の市民評価委員会にお集りいただきまして大変ありがとうございます。 平素は、市行政に対しまして、格別のご高配をいただきまして心からお礼を申し上げます。 行政評価制度につきましては、市民参加を進めていく中で、政策決定過程への参加と同時に、行なった事業を正しく評価し、その後の事業に生かして

	<p>いくということが必要であるという考え方から、平成 14 年度からスタートいたしました。</p> <p>本年度も各課所において、自己評価を行ったものを、皆様に評価していただき、最終的には、経営戦略会議で、決定するというプロセスで進めてまいります。</p> <p>市民評価の中で、皆様方からいただいたご意見につきましては、これからの行政活動や平成 29 年度の予算編成に活かしていきたいと考えております。</p> <p>委員の皆様方には、大変お忙しい中ではございますが、どうかよろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>市民評価委員会は、委員長が議事進行することとなっておりますので、眞鍋委員長にお願いしたいと思ひます。</p> <p>眞鍋委員長よろしくお願いたします。</p>
眞鍋委員長	<p>それでは会を始めさせていただきます。</p> <p>昨年引き続きまして、委員長を務めさせていただきます、眞鍋でございます。よろしくお願いたします。</p> <p>委員の皆様方も昨年引き続きの方が多いですが、変わられた方もいらっしゃいますので、自己紹介をお願いします。</p>
各委員 事務局	<p>&lt;自己紹介&gt;</p> <p>&lt;変更・欠席委員紹介、自己紹介&gt;</p> <p>なお、市長は、次の公務のためここで退席させていただきます。</p>
眞鍋委員長	<p>それでは、議事を進行いたします。まず、確認でございますが、本委員会は、この全体会とそれぞれのまちづくりに分かれて実質的に審議していただく専門部会で構成されていますが、会議の性質上、審議の内容を非公開にすることではございませんので、その両方を公開とすることとしています。昨年度に引き続き、公開することにご異議ございませんでしょうか？</p>
各委員	<p>異議なし</p>
眞鍋委員長	<p>それでは、本年度についても、新居浜市行政評価委員会市民評価委員会は、全体会及び専門部会の両方を公開することといたします。</p> <p>それでは、会次第に従って進めていきたいと思ひます。まず、新居浜市行</p>

	政評価の概要について事務局から説明をお願いします。
事務局	<「新居浜市行政評価の概要について」説明>
眞鍋委員長	ただいま、制度の概要について説明がありましたが、何かご質問はありませんか。
眞鍋委員長	それでは、平成27年度行政評価結果の経営戦略会議及び予算への反映について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<「経営戦略会議及び予算への反映について」説明>
眞鍋委員長	ただいま、事務局から説明がありましたが、何かご質問はありませんか。
佐藤委員	予算への反映は誰が決めるのか。手引きでは議会が決定することになっている。
事務局	予算は議会の議決を経て決定することになります。
佐藤委員	市民評価・経営戦略会議の結果と予算への反映の結果がなぜ違うのか。誰が決めるのか。
事務局	市民評価では、来年の予算をどうするのかではなく、中長期的な視点で、重点化していくのか、縮小していくのかといった評価をしていただいています。昨年度は、平成26年度の事業について評価をしていただいています。予算への反映については、平成27年度の予算と単純に比較して、減ったか増えたかを表示していますので、市民評価結果と一致しないケースが出てきます。
佐藤委員	どこで最終的に決定するのか。
事務局	最終的な決定は、市長を委員長とし、各部局長で構成する経営戦略会議で決定することになります。
佐藤委員	説明は理解できるが、この表ではそれが分からない。表示の仕方についてもう少し何とかならないのか。

眞鍋委員長	市民評価の審議は経営戦略会議で行うが、予算の審議は別の組織が行うのではないのか。
事務局	<p>そうではなく、予算への反映は、平成27年度予算と平成28年度予算を比較しての結果を表示したもので、平成26年度事業の市民評価結果とは、1年のタイムラグがあるため、結果が必ずしも一致しません。</p> <p>市民評価では、事業の必要性について評価を行ってもらっていますが、この表では、その結果と予算の反映結果とを並べて表示しているため、わかりづらいものとなっています。例えば橋りょう維持修繕事業ですが、市民評価、経営戦略会議ともに現状のまま継続するとしており、今後も橋梁の維持管理を継続して行っていくことの方向性については一致していますが、年度によっては、橋の大きさだったり、数によって予算が上下します。平成28年度の予算については、平成27年度と比較して減っているため、縮小するとしており、それを並べて表示しているため分かりづらいものとなっていますが、表示方法については、来年度以降検討させていただきたいと思います。</p>
加藤委員	予算への反映の結果だけをとりえるとややこしいことになる。市民評価の結果が、経営戦略会議でどうなったのか、その結果が分かれば良いので、敢えて、予算への反映結果まで表示する必要はないのではないのか。
事務局	表示方法については、変更も含めて検討させてください。
眞鍋委員長	市民評価と予算への反映結果での言葉の定義が違う。その辺りの表記を検討してもらいたい。
伊藤委員	市民評価で出した評価が、どのように予算に反映されたのか。また、反映されなかったのかを表記していただければ、このような議論にはならなかったのではないのか。
事務局	予算への反映結果の表記については、変更する方向で検討させていただきます。
眞鍋委員長	それでは、平成28年度の評価対象事業を選択していただくこととなりますが、評価対象事業の選定方法や専門部会の設置について、事務局から変更の提案があるそうです。事務局から説明をお願いします。

事務局	<「平成28年度市民評価対象事業選定について」説明>
眞鍋委員長	質問はありませんか。
佐藤委員	もらった資料で自分の部会の事務事業の勉強をしてきている。唐突にそんな話をされても困る。
事務局	公募委員さんは、フリーの立場で部会を選んでもらって構いません。
沖委員	評価事業数を15から10事業に減らすことは、指導性が強くなりすぎて自由度が効かなくなる。広い評価ができなくなる。老人クラブの代表として参加しているが、高齢者の福祉に関心を持っており、十分検討してもらいたい思いがある。健康寿命が延びるよう、もっと予算を拡大してもらいたい。そういった意見が言える場が必要。
伊藤委員	事業はどのようにして決まるのか。そこに市民の意見は反映されているのか。
事務局	担当課からの予算要求があつて、ということになりますが、当然、つながりのある市民の方々や関係団体からの意見は聞いた上で計画しています。
伊藤委員	これまで市民評価委員をやってきて、果たして市民の意見がどこまで反映されているのか疑問に思ってきた。皆それぞれ専門の分野から選出されてきており、そこを異動するのは反対である。
越智委員	昨年までの部会単位で異動するのは乱暴ではないか。どうせ異動するのであれば、シャッフルすべき。
事務局	皆さんの希望の部会を聞いてという案も用意していたが、時間もかかるので、部会単位での異動を案1として提示させていただきました。
佐々木委員	皆さんそれぞれの業界・団体を代表して出てきている。専門分野だからこそ分かるが、分野外であれば、何もわからず事業が選べない。これまで通りの方が効率が良い。
加藤委員	簡素化・廃止の評価が少ないということだが、中々その評価はしづらい。

	<p>経営戦略会議でそういった評価がどんどん出ているのなら、そういった視点も必要かと思うが、市民評価と全く一緒な評価しかしていないのなら、そこまで市民評価委員会に求めるのはいかなものか。市民目線で、重点化の評価をしても、限られた予算の中、増えないことがあったとしてもそれは仕方がないことである。</p>
佐々木委員	<p>我々委員は、評価したことが予算にどう反映したのかが知りたい。そこがはっきりしないため、欠席者も増えるのではないか。</p>
加藤委員	<p>簡素化・廃止といった評価がでないからといって、専門部会を再編するのは飛躍しすぎているのではないか。</p>
事務局	<p>今回は、事務局の案ですが、市民評価委員会で例年通りの専門部会とすると決定していただいても構いません。経営戦略会議には報告しておきます。</p>
眞鍋委員長	<p>事業の中には、同じことの繰り返しで成果の上がっていないものもあり、廃止すべきといった思い切った評価も必要かもしれない。重点化するだけでなく、幅広く積極的な評価も必要ではないか。</p>
沖委員	<p>重点化するという事は予算を増やすことと認識している。地籍調査については、国の予算がもらえるのが平成29年度までと聞いているが、新居浜市は他市に比べて著しく遅れており、国の予算を積極的に使って進めるべきではないのか。</p>
事務局	<p>国や県の補助金や交付金については、積極的に活用していくべきものと考えています。重点化するという事は必ずしもお金だけではなく、人や物、時間も対象になります。地籍調査については、係を課に昇格させて、人を増やすことで重点化しています。</p>
佐藤委員	<p>経営戦略会議が何を決めたのか知らないが、市民評価委員会のことは我々市民評価委員が決めればよい。</p>
眞鍋委員長	<p>重点化するといった評価が多いことからの提案であったが、廃止や簡素化するといった評価も含めて幅広い評価をお願いするということで、事務局案は却下し、従来通りの専門部会とする。事業数の削減についてはどうか。事務局の方で予め絞り込んでいるのか。</p>

事務局	予算担当の方で、県の負担金等変えようのない事業については、あらかじめ削除しています。
佐々木委員	例年各フィールドの施策から一つずつ選んでいるが、大体15事業位になる。
事務局	各専門部会で判断していただいて構いません。上限を15事業とし、10～15事業を選定してください。
伊藤委員	評価の方法について、担当課の職員が数名説明に来ているが、職員の負担も大きく、評価方法を変えることで職員の負担を軽減できないか。
眞鍋委員長	評価シートを見直すということか。
伊藤委員	どの事業も必要なもので廃止といった評価はできない。事業が実際きちんと行われたのか、その評価を市のアンサーとして出してもらえれば、それが適正なのかどうかを評価できる。
加藤委員	評価シートだけでは理解しづらい。やはり職員が来て説明してもらうことで、こちらでも理解できるし評価もできる。
伊藤委員	お互い顔を合わせて話をする 것도大事だが、こちらのレベルが低く事業の本質まで理解できない。そりよりは、事業の進捗状況をチェックすればよい。今後の検討をお願いしたい。
眞鍋委員長	次に、対象事業一覧表の見方について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<「対象事業一覧表の見方について」説明>
眞鍋委員長	それでは、専門部会に分かれて、選定作業を行ってください。
事務局	(32・33会議室に移動し各専門部会で事業選定を行う。)
眞鍋委員長	それでは、専門部会での評価対象事業も決まったようですので、事務局の方から結果の報告と、今後の予定をお願いします。

<p>事務局</p>	<p>選定事業数ですが、快適交流・経済活力部会は15事業、環境調和・健康福祉部会は13事業、教育文化・自立協働・計画の推進部会は11事業となりました。合計39事業、今年度評価していただくこととなります。よろしくお願いいたします。</p> <p>今後のスケジュールについてですが、本日スケジュール調整表を出して頂いておりますが、まだ出されていなければ、お帰りの際出していただくか、後日FAXでご提出をお願いいたします。このスケジュール調整表で、9月1日から10月7日までの間に各専門部会2～3回の日程をとらせて頂きたいと思っております。日程は、これをもとに調整させていただきます。後日郵送させていただきます。その時に、先ほど選定していただきました事業についても一覧表にしまして、事務事業の長期総合計画での位置づけ、概要や事業担当課の評価結果を記載した資料を同封し第1回専門部会開催の1週間前までには、送付したいと思っております。</p> <p>また、2～3回の専門部会の終了後、全体会ということで、遅くとも第2回の市民評価委員会を11月中旬頃までに開催できればと思っております。そこで、市民評価の決定をしていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>眞鍋委員長</p>	<p>日程調整をして頂きまして、専門部会を開催して頂きます。ご協力をお願い申しあげまして平成28年度1回目の市民評価委員会を閉会いたします。委員の皆様には、長時間にわたり、誠にありがとうございました。</p>